

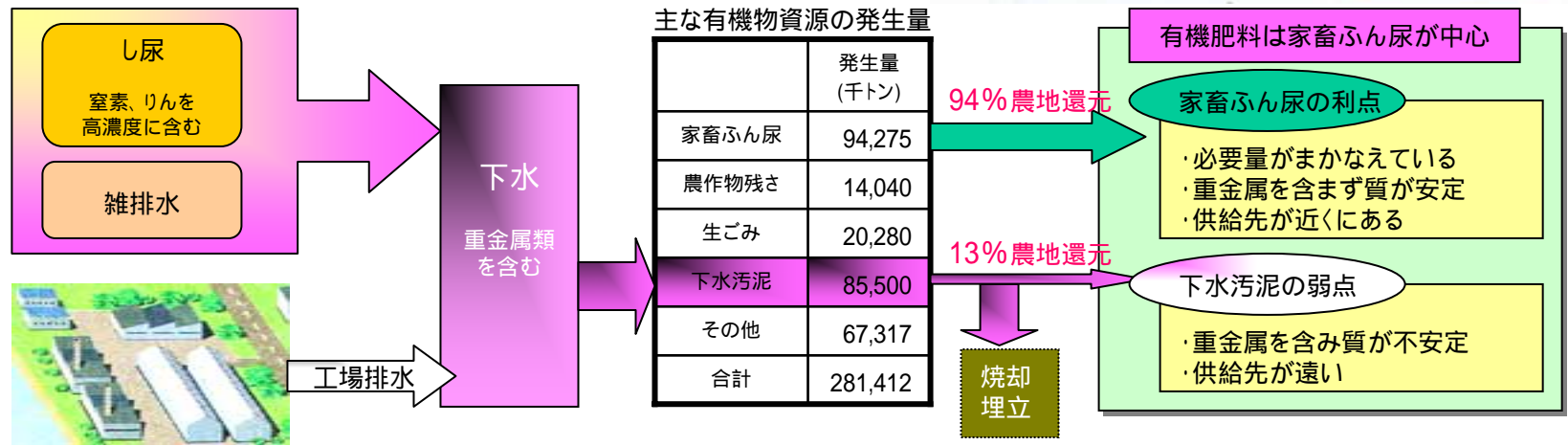
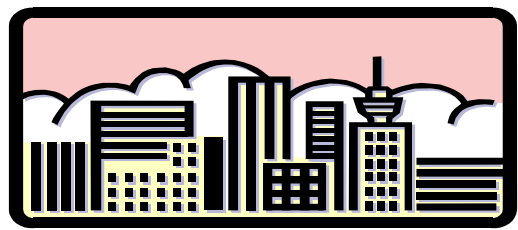
提案21 江戸の町復活構想 ~都市下水の農業利用~

- 背景 -

江戸時代、100万人都市江戸は、エコロジータウンでした。
 都市の人々が生み出すし尿は、江戸周辺の農村へ高価な肥料として運ばれ、そこで生み出される農作物が100万人の食を支えていました。江戸は、当時の大都市には珍しく清潔な循環型社会だったのです…

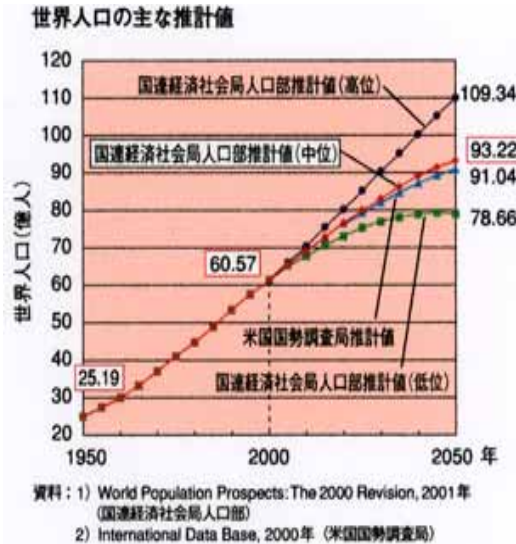
現在の都市は…

農村は…



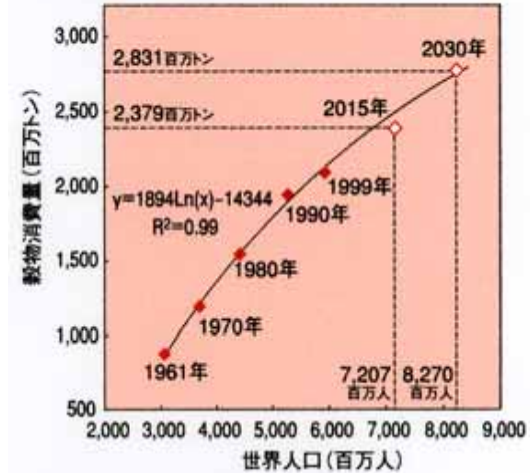
将来の食と水

2050年には1.5倍
になる世界人口



食スタイルの変化 肉類中心 穀物の消費増

世界の人口と穀物消費量の将来見込み



注: 1. 2015年及び2030年の穀物消費量は資料1)による。
2. 1961年から1999年の値は、資料2)の穀物生産量のデータ。近似曲線はこれを基に引いたもの。
3. 上図において、米は籾米ベースである。
資料: 1) World Agriculture: towards 2015/2030, 2002年 (国連食糧農業機関)
2) Statistical Databases (国連食糧農業機関)
3) World Population Prospects: The 2000 Revision, 2001年 (国連経済社会局人口部)

確実に迫る
世界的な食糧と水の危機

世界の年間穀物消費量は2000年から2030年までに10億トン増加

かんがい耕地の拡大
農業用水の増加

世界の水使用量は1995年から2025年までに1,340km³/年増加

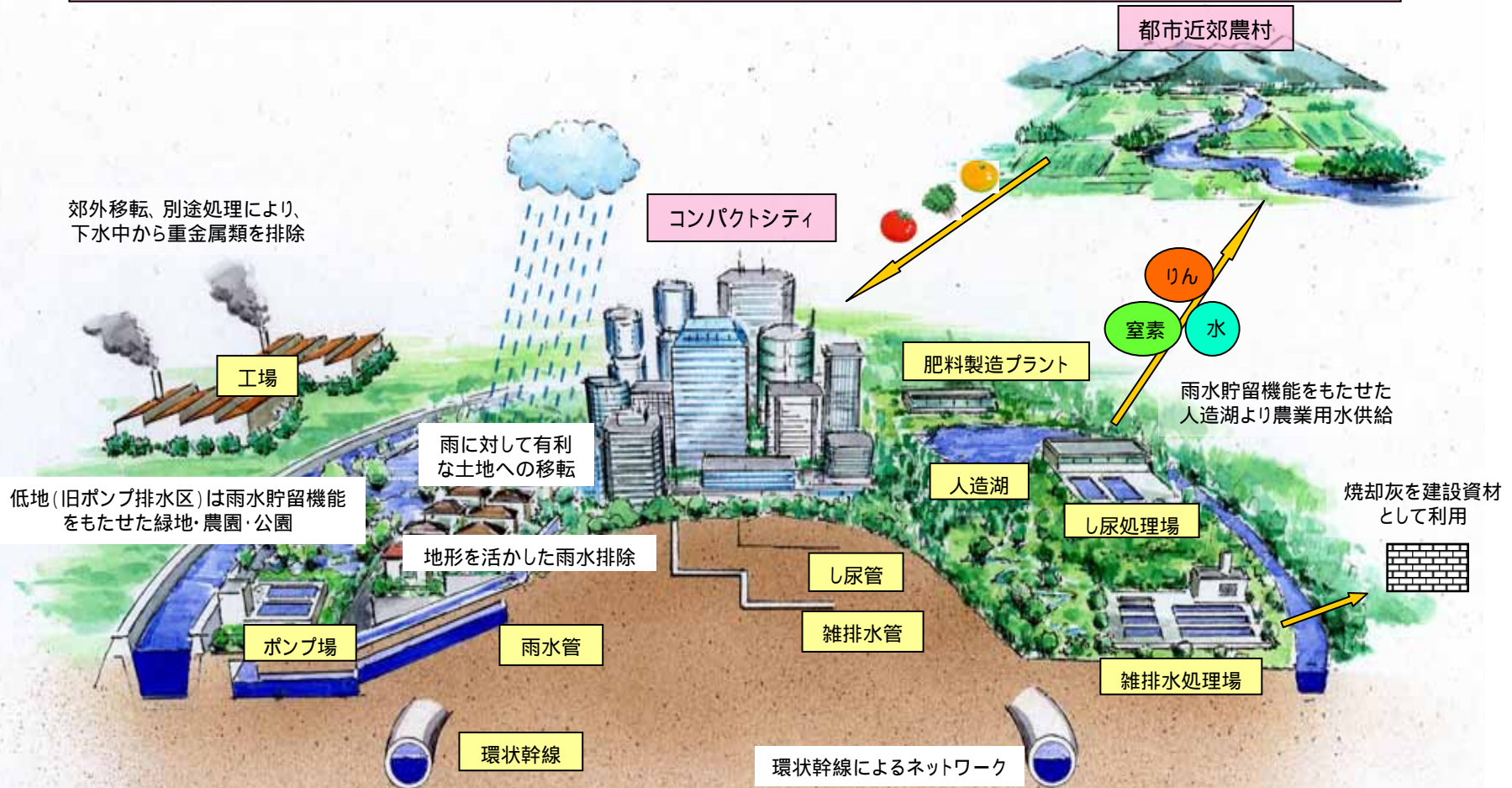
国内農業振興

農業用水需要増
肥料需要増

現状(平成13年度)		
食料自給率	カロリーベース	40%
穀物自給率	主食用	60%
	飼料用を含む全体	28%

- 概要 -

都市の再開発事業のなかで、都市構造と下水道システムの改造により、江戸の町の有機物循環システムを再現し、雨に強いまちづくりを目指します



- 実現のためのシナリオ -

再開発事業に連携してし尿処理システムの導入を図る
都市のコンパクト化、人口減を踏まえて、既存都市内に生じる平面的余裕を積極的に都市構造の変革に利用

し尿と雑排水の分離回収処理の導入

- ・し尿・・・新規に管渠(真空式, 圧力式)、処理施設建設
効率的な窒素、りん回収システムの開発
- ・雑排水・・・既設管渠、処理施設の再構築
- ・再開発地区におけるし尿分離システム導入の誘導施策
- ・工場排水・・・都市内では個別処理とし、下水道へ接続させない
制度の導入

厳格な土地利用規制の導入

- ・浸水常襲地区や、地形的に窪地になっている地区から再開発
エリアへの移転を推進
- ・再開発地区への工場建設の抑制・排除
- ・雨水の地表流下を許容できるまちづくり
(家屋の耐水化とバリアフリーとの両立) 法規制の整備

し尿汚泥の農業利用

- ・食糧自給のための農業振興施策の推進
- ・し尿を肥料に作られた農作物に対する抵抗感の払拭

官民共働のまちづくり

地域の意見を反映した・・・

- ・再開発計画の立案
- ・新しいライフスタイルの提案